



# R. I. 第2630地区 高山中央ロータリークラブ WEEKLY REPORT

2010～2011 年度 高山中央 RC 会長テーマ  
「心をつくし、力を合わせて」

◆会長 清水 幸平 ◆幹事 大保木 正博 ◆会報委員長 今井 俊治 ◆会報担当 岡崎 壮男

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市花岡町 1-15 丸越商事 4F  
TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488  
◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600  
◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～  
◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 853 回	49 名	48 名	44 名	—	91.61%
前々回 851 回	49 名	48 名	32 名	8 名	83.33%

<点 鐘> 直前会長 橋本 修  
<ソング> それでこそロータリー  
<4つのテスト>

<本日のゲスト>  
国際ロータリー第2630地区  
パストガバナー 中川 良三 様  
(下呂RC)

<本日のビジター>  
一宮RC 内藤 寛一 様

<会長の時間> 会長 清水 幸平

本日は中川パストガバナーをお招きしての例会です。中川ガバナーの年度を思いかえしますと、高山中央RCは第6代下萩会長、岸元幹事の時代です。後ほど中川パストガバナーのロータリーのお話やら、人生の大先輩としての経験豊富なお話をお聞かせいただきたいと存じます。

さて、先週は大相撲横綱白鵬の活躍に関心が集まりました。連勝記録は千代の富士を抜いて昭和以降単独2位の62連勝。双葉山と大鵬に並ぶ史上最多8度目の全勝優勝を達成しました。

白鵬の本名はムンフバト・ダバジャルガル。月曜日生まれから「月曜日の幸福」という名前です。父は年1回のモンゴル相撲大会で6回優勝し、メキシコ五輪のレスリング重量級銀メダリストになったモンゴル国の国民的英雄です。白鵬は2000年10月25日に6人のモンゴル人とともに3カ月の予定で来日しました。本人は一度日本に行ってみようと思って来日したそうですが、大阪の摂津倉庫で皆と相撲を習っていました。7人のうち3人は入門が決まったのですが小柄だった白鵬を受け入れてくれる部屋はなかったようです。ところが帰国前日の12月24日、大島親方の勧めがあつて宮城野部屋に入門することになりました。その時白鵬は身長175cm 体重65kgでした。新弟子検査は協会規定で75kg以上です。稽古をすると体がしまるといふことで、体を大きくするために食っては寝る生活をさせら

れたようです。それで15kg太って、身長180cm 体重80kgになり入門ができませんでした。当時は父親の実績を知る由もなく、小柄な体から大きな期待はされていなかったようです。しかしその後大食漢だったことと熱心な稽古によって大きく成長することになったのです。

四股名は、横綱大鵬と柏戸に因んで白鵬とする案があったが、色白だったことから白鵬とつけられたようです。

白鵬の夢は、親子三代の横綱。父はモンゴルで横綱、白鵬は日本で横綱、長男にも夢を抱いているようです。

心技体と言いますが、白鵬の場合はまずよく食べよく稽古をして体を作りました。また千代の富士を見習い前禪をとって踏み込む相撲を身につけて大きく昇進しました。そして横綱になってからは心のはたらきを身につけました。よく「いい相撲をとりたい」と言います。白鵬はいい相撲をとるためには、勝つことを意識した相撲をとらない、自分の型にこだわらず流れるままに相撲をとる、そして自分の相撲をとりきるのだと考えているようです。このことは私たちの企業経営にも通じるところがあるように思います。

千代の富士、大鵬、双葉山を尊敬し、見習おうと努力している白鵬です。九州場所の活躍が楽しみです。



## &lt;幹事報告&gt;

幹事 大保木 正博

◎ガバナー事務所より

- ・ロータリーレート 10月 1ドル=86円
- ・インターアクト韓国派遣報告書

○ガバナー補佐より

・IM登録のお礼と来訪に関するお願い及び人数変更の  
お願い

○ロータリー米山記念奨学会より

- ・ハイライトよねやま 127号

○平塚湘南ロータリークラブより

- ・活動計画書
- ・会報

○高山ロータリークラブより

- ・例会変更のお知らせ

10月28日(木)→10月24日(日)

地区大会運営のため

&lt;HC高山市ハンドボール協会より&gt;

- ・協力金のお礼
- ・平成22年度国民体育大会出場決定のお知らせ

## &lt;本日のプログラム&gt;

出席/プログラム委員会

新井 委員長

## &lt;卓話&gt;

国際ロータリー第2630地区パストガバナー

下呂ロータリークラブ

中川 良三 様

## &lt;今から65年前の戦争の話&gt;

私は、旧制中学を岐阜で卒業しました。その岐阜での下宿先の長男は、民間航空会社のパイロットでした。自分も11、12歳の頃その方のようなパイロットになるんだと憧れをいただきました。パイロットになるための情報を集めてみると、視力がないので操縦士にはなれない、それなら何だったら飛行機に乗れるのか、それは通信士でした。よって東京の国立の学校に入学しました。

その後、一年で繰上卒業になり、民間の通信士に軍人としての階級を与え、軍属として水戸の航空通信学校に派遣され、6ヶ月間の予定でまいりましたが、3ヶ月たつと退校になり、卒業した50人位が陸軍航空輸送部に入り、この輸送部は市ヶ谷に本部があり、仙台から南方まで9飛行隊に分れて日本の航空機で輸送任務を扱っている部隊です。私は、その第三飛行隊に他の3名とともに、4名で配属されました。この第三飛行隊は、宇都宮の西の雀宮にある200名程の小さな部隊です。

この部隊は、中島航空機製作所で製造された最新鋭の飛行機を、戦地へ輸送するという任務が与えられていました。しかし、問題点が2つありました。1つ目は操縦士が不足していた。当時は、役に立つ操縦士は全て前線へ行ってしまっている、その操縦士を予備役の予備役のような人

を集め、宇都宮で訓練し、足らなければ民間航空会社3社より操縦士を募り戦闘機の訓練をし、まだ不足しますので軍隊は大学2、3年生を募り、1年で少尉とし、そういう士官を育成しました。

私たちの隊にも12名の見習士官がきましたが、今までは2枚翼の赤とんぼという2百数十キロの速度の練習機で訓練してきただけなので、500キロの速度の戦闘機は、全然違うので訓練中に、12名中6名が戦死しました。2つ目の問題点として操縦士は、長距離飛行が不可能である。即ち当時は、コンピューターが未発達のため有視界飛行しかできない。このような状態のため、アメリカ軍の最新鋭戦闘機に遭遇すると1発で撃ち落されてしまうため、退避しながらまた、目的地の気象条件も敵情も分からない状況の中、操縦士と機関士と通信士と3名乗り、台湾へ戦闘機を輸送しました。この輸送には、敵情の収集など情報の収集が通信、広報の大責任でした。

2回目か3回目に台湾に行ったとき、地上滑走している間に、50キロ爆弾のところに小さな穴があいて、備品が落ちてパンクさせてしまって、ステを折ってしまい航空省と相談した結果、日本に部品があるか不明だし輸送もできないので現地で調達してくれということになり、台湾の中央部にある飛行場に前の壊れた同機種の飛行機があるので、それを撃とハンマーで分解して、台北まで運んでくるということになり、私と杉山という少尉2名で行き24時間昼夜を問わず撃とハンマーで分解し、トラックに乗せて台北へ発進させました。

当初運ぶためトロッコ列車に乗せようとして依頼したが、なかなか乗せてくれなくて大喧嘩をした末に断念をしたトロッコ列車が転覆して4名が死亡したという事をあとで聞いて、運命のわかれ道であったと感じました。

また、何回目かの輸送の帰り天候の関係で4、5日逗留することになり、5日目の晩指命部から伝令がきて、1人便乗できないかということでしたので了解の旨伝えました。これは戦況が悪くなり、台湾はもう前線基地ではなくなっている、四国、近畿、関東地方をかためるために参謀を転勤させたのではないかと判断しました。

私は、この帰りには、編隊の中の大半が九州出身者だったので、家族のもとへ一晩帰らせてやろうと思っていました。それは、隊長からこの次帰ったら特攻隊要員の編成の密命を受けていたためです。しかし、少佐参謀は、それをゆるさず、「貴様は、軍の作戦に抵抗するのか」と言うのでやむを得ず福岡から高松へ送りました。ただ、少佐参謀はさっさと帰ってしまい、私たちの宿泊の手配やご苦労の一言もかけない人でした。

みんなは、憤まんがおさまらないので、富山へ行こうということで、富山へ行って遊びました。一方私は1月ほど前に山へぶつかった中尉の方が編隊された隊の遺骨を納めである寺に入って一晩不寝番をして、次の日全員無事で帰還しました。なお、この時高松へ向かわなかったら、次の日に福岡で空襲に遭い亡くなっていたかもしれなかった。

隊へ着くと隊長が大声を張り上げ、何をやっているのかと激怒するのです。これは、6機の誘導機のうち、2機は事故、3機は東シナ海で撃墜され私の1機しか残っておらず、戦闘機がたまってどうにもならなくなっていたためです。



ところで隊長はその数日前に、戦闘機のための編隊 13 機を北京へ出し、その 13 名の操縦士救出という任務が待っていました。その際私は、同じペアで行くと思っていたのですが、隊長が操縦して行くと言い出したので、隊員は皆大喜びをしました。それは、隊長は学徒上りであまり操縦したことがなく、操縦が上手くないので必ず墜落するにきまっていると、その位下士官から憎まれていました。我々は生贄だとも思いました。

私は福岡へ行ってから北京へ行くと言ったが隊長は、この非常時にと直行を命じたのです。

ちょうど能登半島の近くへ上昇していくと、入道雲が発達しており隊長はこれを越して行くと、高度を 4,000 メートルから段々と上昇させ 6,800 メートルになったとき、飛行機が 6,800 メートルから 5,000 メートル落下し 1,800 メー

トル地点から復活するという事件が起きました。なぜ 5,000 メートル落下したかと言うとエンジンがガソリン切れで停止してしまったからです。

飛行機のガソリンタンクはいくつにも分れていて、1つのタンクのガソリンを使い切る時間が計算されています。機関飛行士は次のタンクのcockを開く時間までにガソリンが切れてエンジンが停止し 5,000 メートル落下したのです。計算されていた時間より早くガソリンが無くなったのは、隊長がガソリンの混合比率を間違えていたからです。この隊長は、尊敬されていなく「隊長の乗る飛行機は墜落するぞ」とうわさされていて、その飛行機に私は乗ったのです。私もこれで最後と思いました。1,800 メートル位落下し、その落下する瞬間、一番信頼している杉山さんに手話で大丈夫かと問うと、大丈夫だと返答があり、5,000 メートル落下してエンジンが始動したのです。杉山さんは、学校で教わったことを順番に並べてやってみたら 2 つ目の燃料切れだと思い、cockを切りかえガソリンをあおって始動しただけだと言っていました。今まで大威張りだった隊長が、ガタガタと震え、「飛行場を探せ、飛行場を探せ」と言っている。幸い防府に不時着陸しました。そこは、特攻隊の基地のため夕方まで休ませてもらい、直ちに福岡、北京へと向かいました。なんと、13 機発進させて 3 機しか到着していなかったのです。これは、台風の影響で戦闘機では大きな雲を越して行くことができないため他の飛行場に 10 機は不時着していたためです。

迎えがなかなか来ないので、渋々鉄道で朝鮮半島へ向ったそうで、それを救出半分して終戦となりました。

『最後まで極める、諦めないことが非常に大切である』と思われま。

#### <ニコニコBOX>

本日はよろしくお願ひします。

**パストガバナー 中川 良三 様 (下呂RC)**

本日初めて貴ロータリークラブにメーキャップさせて頂きました喜びとして。また来月 10 月 9 日と 10 日に執り行われる秋の高山祭りに「高山祭屋台織物」11 台のお軸を奉納させて頂く喜びとして。その折には松之木様には大変お世話になりました。

**一宮RC 内藤 寛一 様**

中川良三パストガバナー様、内藤寛一様のご来訪を心から歓迎申し上げます。中川パストガバナーにおかれましては、本日は卓話をよろしくお願ひ申し上げます。

**役員理事一同**

中川パストガバナー様、一宮RCの内藤寛一様、ご来訪を歓迎申し上げます。

中川パストガバナー様にはご無理をお願いしました。御講話をよろしくお願ひ致します。

**新井 信秀**

本日、薩埵会法要を東山雲龍寺で午後 1 時 30 分から行いますので早退します。

**仲谷 政美**

中川パストガバナー様、内藤寛一様、ご来訪を歓迎申し上げます。中川パストガバナー様、本日は卓話大変楽しみにしております。下呂のご自宅で少しの間でしたがお話しお聞きしたことがあります。大変感動いたしました。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

**大保木 正博**

中川パストガバナー 本日は当クラブにご来訪頂き誠にありがとうございます。ご指導よろしくお願ひします。また、一宮RCの内藤寛一様、本日は当クラブでメーキャップ頂きありがとうございます。高山祭の織物を作られたのでこれが幅広く良い方につながればと思います。

**松之木 映一**

土曜日は、セブンスターのみなさんありがとうございました。高山中央ロータリークラブの友情に感謝してニコニコへ。

**高木 純**

土曜日は、孫の運動会デビューで楽しんできました。

**新宮 一郎**

本日、早退します。

**三枝 祥一**